



第 436 号 平成 26 年 11 月 1 日

発行所 京都市学校医会

京都市中京区間之町通竹屋町下ル

楠町 601-1 こどもみらい館 2 階

T E L (075) 256-0351

F A X (075) 241-3568

発行人 林 鐘 声

第 43 回京都市小学生陸上競技記録会

会 長 林 鐘 声

10月18日(土)、雲1つなく西南の上空には三日月、温かく風もない秋晴れのもと、西京極総合運動公園のメイングラウンドで開催されました。参加したのは154校、1646人の6年生。サブグラウンドでは、第34回京都市小学生持久走記録会が同時開催し、1148人が参加。合わせると、在籍児童の4人に1人強が、この競技場に集まっていたこととなります。

医務として奥村先生と私が、救護には養護の2人の先生が出務し、各々ペアとなり会場に別れて医務活動に従事しました。

持久走記録会は、例年1月の第3週の日曜日に鴨川河川敷で実施して来ましたが、中学入試と重なることが多くあったと記憶しています。以前より公道である河川敷を使用すること、応援の保護者の駐車に伴うマナーの問題、大文字駅伝に近い日程など、懸念材料がありました。今回の同時開催が定例化するかは未定だそうです。来年はどうなるでしょうか。

メイングラウンドの様子を報告しますが、持久走については奥村先生から別に報告があります。

9:30AMに開会式があり、競技は10:00AMより100m走が男65組、女71組、ホームストレッチ、バックストレッチに別れて始まりました。フィールドでは走り幅跳び、走り高跳びが男女別に実施。100m走終了後、昼休みなく50mハードル走に移り、その後、学校対抗で応援も一段と盛り上がる4×100mリレー走が最後に行なわれ、予定通りに進み4:30PM過ぎに解散となりました。

医務室を訪れたのは14人(男:女=8:6)。競技出場前のトラブルを原因とする8人が訪れたせいで、朝のうちは競技観戦も中断することがしばしば

でした。競技に伴う外傷は6人。擦過傷や軽い捻挫など外傷処理で十分で、大きな問題となるものはありませんでした。一方、競技出場前の事例では、アップ時の外傷、以前からの捻挫の悪化、インシュリン注射、出場前の緊張などでしたが、うち3人は出場不可と判断しました。左肘打撲が強く、自発病腫脹があり回内回外ができないことから、腕振りが出れない例、左足底部の一部腫脹、圧痛を強く認めた例、頭痛、目の奥の痛み、光がまぶしいと訴え来室し、ベット安静中に2回の嘔吐があった例でした。前二例は月曜日受診でよいと判断しましたが、三例目は改善がないため、すぐに受診が望ましいと考えました。保護者と連絡がつかないことから、校長と相談し医療機関へ行く引率を依頼しました。結局、母親が医療機関で合流し、十分に病状、今後の対処について理解が得られたのは幸いでした。保護者と連絡がとれないことは、学校現場でもままあることのようにです。医療機関への受診の判断をためらったために、あるいは受診させたことで苦情が後で寄せられることも決して稀なことではないそうです。医務として出務した立場でいうと、病医院への紹介状を準備しておいて欲しいところでした。出務した医師の紹介状があれば特定療養費はクリアできると考えますが、どうなのでしょう。

他に擦過傷に伴うことで3度も来室した生徒には、私ならすぐに"大丈夫"として済ませてしまうところでしたが、養護教諭の生徒の訴えをききとり支援する姿勢には勉強させられるものがありました。学校の保健室の仕事の一部を垣間見る一日でもありました。

小学生陸上競技記録会に行ってきました

福西小学校校医 奥村正治

平成26年10月18日（土）に西京極総合運動公園で記録会が曇一つない快晴で行なわれ、当方も日焼けするくらいの天候でした。全体的なのは、林会長が報告なさると思います。当方は補助競技場にて行なわれた小学生持久走記録会の方の医務を担当しました。昨年までは、加茂川の河川敷で行なわれておりましたが、本年より方向が変わり、西京極で行なわれると言う事になりました。持久走の走行距離は1500mですので、1周400mのグラウンドを3周と3/4周走る事になります。これからは加茂川ではなく、この西京極で、と言う事になるので、今回第34回の持久走記録会でしたが、33回までの記録は距離が違

うために記録とはならない。今回の記録が西京極の持久走としては初代の記録になるとの事です。エントリー上、男子683人、女子465人でした。

担当の医務の部は、1500m走のみですので、転んで！！という症状ばかりでした。擦過傷3例、捻挫1例、胃腸炎1例（嘔気）、本年も骨折が走行中転んで1例出ました。（重複あり）20日（月）に手術を受けている様です。

スタート時にもっと転んでと言う症例が出るかと思っただけですが、擦過傷の例の中、スタート時の分は1例でした。

第36回近畿学校保健連絡協議会

会長 林 鐘 声

7月24日（木）、京都府医師会館で開催されました。私は、前回の京都府学校保健会が主管した時以来の出席です。出席名簿をみると、2府4県、4政令指定都市から教育委員会、学校三師、校長、養護教諭、保健主事が参加し、全体で150名、医師は16名でした。

上記の10学校保健会から今年度の活動報告とともに日本学校保健会を通じて国への「学校保健」の充実に関する要望が各々より発表されました。複数要望のあったものは、（1）養護教諭の複数配置、（2）栄養教諭の配置拡充、（3）学校環境衛生検査実施のための機器の配置助成、（4）薬物乱用防止教育、性に関する指導の新しい教材、などでした。それ以外に京都市学校保健会の独自のものは、（5）運動部活動における熱中症予防、また、運動部に特有な外傷予防の為、指導者に対する安全教育の充実のための措置、（6）洋式トイレの普及など学校設備改善への財源補助、（7）学校生活管理指導表の作成にかかる料金に対する予算措置、などでした。この他にも、多くの要望が出ていましたが、最終的に近畿ブロックとしてまとめて日本学校保健会に提出さ

れることとなります。来年は大阪府学校保健会が主管予定です。

講演は「学校における色覚の対応について」公益社団法人日本眼科医会常任理事の柏井真理子氏によるものでした。色覚検査が定期健康診断の必須項目でなくなったために、平成15年度以降はほとんどの学校で検査が実施されなくなりました。そのため、児童生徒が自身の色覚の特性を知らないまま不利益を受ける事例のあることや、保護者に対する色覚異常など色覚の検査に関する基本的事項についての周知が十分でないことの指摘もあるなかで、平成26年4月30日文科省局長通知が出ました。それには、児童生徒や保護者の事前の同意を得て個別に検査・指導を行う、教職員が色覚異常に関する正確な情報を持ち適切な指導を行う、保健調査に色覚に関する項目を新たに追加するなど、より積極的に保護者への周知を図る必要のあることが記載されています。講演はこれらの経緯を詳しく説明するとともに、色覚異常の基本についても分かり易く示していました。詳しくは京都府眼科医会HPが役に立ちます。

平成26年度 子どもの健康週間 子育て支援シンポジウム

(10月18日開催 於：子どもみらい館)

川岡東小学校校医 山内英子

今年度は「子どもの成長と運動発達 ～整形外科の視点から～」というテーマで開催されました。参加者は83名(医師15名、一般68名)と、今年も沢山の保護者、幼稚園・保育園・学校関係の方たちに聞いて頂くことが出来ました。

まずはじめに、京都府立子ども発達支援センター理学療法士の服部裕子先生から「子どもの豊かな発達のために～発達の個人差と気付きな運動について～」のお話を頂きました。

- 1) 正常発達にはバリエーションがあり、同じ発達過程をたどる方はいない
- 2) 「〇ヶ月に△△ができる」という運動発達の順序表は、おおよその目安でしかない
- 3) 「いつ」「どこで」生まれたかが、発達に影響を与えることもある

この3つの点を非常にわかりやすく説明され、母子帳や育児書と目の前のお子さんを比較するのではなく、お子さんへの愛情を沢山注いでいきながら、お子さんの変化に気づき、変化に合わせた関わりを持って行って欲しいという事を、ゆっくりと丁寧に

話してくださいました。子育てしていく中で多くの不安やさまざまな悩みをお持ちの親御さんにとっては、非常に有意義なお話であったと思います。

二つ目の講演は、京都第二赤十字病院院長(整形外科)の日下部虎夫先生に「子どもの健やかな成長のために～小児整形外科医の立場から～」でした。

先天性股関節脱臼、先天性内反足、若年性関節リウマチ、単純性股関節炎などの炎症性疾患、ペルテス病、オスグット病などに代表される骨端症などの小児整形外科疾患について、スポーツ外傷のお話、と生まれてすぐの問題から、小中学生までを含めて非常に多くの疾患について教えて頂きました。小児では成長による変化が大きいことを学びました。

二つのお話が終わった後の質疑応答の時間には、抱っこひものことから、発達の見守り方まで、活発な討議が行われ、終了後もお二人の先生方の前には多くの保護者の方が個別質問に並んでおられました。

来年度も、皆さまのお役に立てるような「子育て支援シンポジウム」を企画していきたいと思っています。

京都市学校保健会 健康教育シンポジウム

(10月28日開催)

太秦小学校校医 井本雅美

毎年秋に、京都市総合教育センターの永松記念ホールで京都市学校保健会の健康教育シンポジウムが開催されます。このシンポジウムは前半の講演と後半のパネルディスカッションという二部構成になっており、そのパネリストとして参加しました。

今年の主題は「生きる力を育む口からの健康教育」ということで、前半は国立モンゴル医科大学客員教授(元岡山大学病院 小児歯科 講師)岡崎好秀氏による「世界で一番聞きたい健康教育論」という講演でした。

例年であればその講演の後、各部会代表のパネリストが各々の発表するのですが、今年は前半の講演

を聞いた上で、その内容についてディスカッションをするという今までにない構成となりました。

・・・ということで、何はともあれ(あたりまえですが)先の講演をしっかりと聴かなければ話になりません。シンポジウム前日はいつもより少し早く就寝して翌日午後の講演に備えました。

お昼過ぎといえは睡魔が襲う時間帯ですが、「世界で一番聞きたい健康教育論」では、食生活と虫歯の関係、噛むことの大切さ、唾液の様々な働きなど、口内環境が全身の健康に深く関わっているといった歯科医の先生としての話だけではなく、効果的な伝え方や教え方といった教授法も具体的に示され、皆

さん最後まで熱心に講演を聴いておられたように思います。岡崎先生によりますと、不特定多数を対象にするときは、小学校3年生が理解できるように話すとともに理解してもらいやすいのだそうです。参考にさせていただきます。

後半のディスカッションは、学校医、学校歯科医、校長、養護教員、PTAの代表5人と、コーディネーター（学校薬剤師）、記録（保健主事）によって行われました。小学生の歯は全国的に非常に減

少しており健診の所見としては歯周病や噛み合わせ異常などが目に付く、極端に口内環境が悪い子どもと虐待との関係、その他色々な話題が出ました。最後に「あいうべ体操」という口の運動を皆で10回行い、会は終了しました。

今回は主題に添って最後まで一貫した形でシンポジウムを進められたため、例年よりわかりやすく有意義な内容になったのではないかと思います。

第 6 回 常任理事会

平成26年11月1日
於 事務局

出席者 林会長、竹内・井本副会長、杉本専務理事、山内・安野各常任理事、佐野眼科学校医会副会長、鈴木耳鼻咽喉科専門医会理事、奥村副議長、長村監事

・会長挨拶

<報告事項>

1. 第26回 子どものこころと身体懇話会 10/4
於：京都第二赤十字病院
2. 色覚相談 10/7, 10/14, 10/21, 10/28
3. 精神衛生研究会 10/9
4. 京都ワクチンフォーラム2014 10/11
於：京都国際ホテル
5. 腎臓相談 10/14
6. こどもの健康週間 子育てシンポジウム
10/18 於：こどもみらい館
7. 平成26年度 京都市小学生陸上競技記録会
10/18 於：西京極陸上競技場
8. 平成26年度 一般社団法人京都府歯科医師会
会員大会 10/18
於：ANAクラウンプラザホテル
9. 京都市中学校体育大会 ラグビーフットボール
10/19 児嶋先生 於：宝ヶ池球技場
10. 京都市中学校体育大会 柔道 10/26
馬場先生 於：京都市立桂中学校

11. 京都市学校保健会健康教育シンポジウム
10/28 於：京都市総合教育センター
12. その他

<協議事項>

1. 教職員健康相談について
2. 複数校医配置について
3. 感染症の予防接種・既往歴調査票について
4. 保健調査票について
5. 全国学校保健・学校医大会 補助について
6. 新年会 出席者について 27年1/10
於：ランベリー京都
7. 監事について
8. その他

<関連学会・各種協議>

1. 色覚相談 11/4, 11/11, 11/18, 11/25,
12/2
2. 第64回 全国学校保健研究大会 11/6~11/7
於：金沢市
3. 第45回 全国学校保健・学校医大会 11/8
於：金沢市
4. 精神衛生研究会 11/13
5. 京都市学校保健会研究発表会及び表彰式
11/15 於：京都市総合教育センター
6. 京都市学校保健会表彰祝賀会・懇親会
11/15 於：京都ロイヤルホテル&スパ
7. 腎臓相談 11/18
8. 第7回常任理事会 12/6
9. その他